

第3回「災害救援センター(南池袋小)体制整備」の進め方」  
に関する 準備会 議事メモ

2023.7.19

8.15改定

雑司が谷・南池袋 町会防災スクラム 準備会

日 時:令和5年6月 20 日(火) 18:30-21:00

場 所:区民ひろば南池袋 活動室

参加者:東目白本町会会長、雑司が谷一丁目会長、雑司が谷三丁目会会長、南池袋二三四町会防災部長

★と→は、会議後に編者が追加。

【要約】

- ① 南池袋小学校で、開設キットと最初に開けるプラケースを見る機会を、8月2日、9日、23日にどこかで設ける。11町会長+α(防災部長など)に声をかける。プラケースの内容物を、順に、写真撮影し、記録を作成し共有する。
  - 豊島区防災危機管理課係長より、閲覧と写真撮影の許可を得た(6月23日)。区役所から学校に一報入れる。
  - 撮影場所(体育館)の使用許可は、学校の貸し出し担当に手続きを行う(8月9日 13:00-17:00 で小学校体育館予約)
  
- ② 豊島区救援センター開設キットの内容物の前半を確認し、課題を抽出した。
  - ・避難者カード、受付カードの記入は複雑で要検討
  - ・体育館での間仕切り活用計画を立てておいた方がいい
  - ・配置図は大判印刷してあった方がいい
  - ・在宅避難者への物資と情報の提供方法を決めておいた方がいい
  - ・地域住民に、開錠・開設について事前に周知しておくが良い
  - ・延焼の危険監視が必要
  - ・救助につながる地域での安否確認は要検討
  - ・ドローンの活用可能性
  - ・町会が避難所支援に来る時間の見込みは要検討
  - ・ペット置き場は学校と相談して、決めておく必要がある
  - ・プールの水を排水に活用する方法を確認しておきたい

- ・施設安全確認の具体的方法を決めておく必要がある
- ・日中発災の場合の学校の計画はどうなっているのか

## ②各町会における災害準備状況を共有した。

- ・トランシーバー

### 【目的】

- ① 開設キット「本部」の確認
- ② 開設キットの部分を紐解く実技案の検討
- ③ 地域防災一般に関する意見交換

### 【資料】

- ① 事前配布：未定稿豊島区救援センター開設キットについて前半、後半（編者）

[https://fumiyochi.net/wp-](https://fumiyochi.net/wp-content/uploads/2023/06/Safe_4_ToshimakuKeyuencenterKaisetuKit.pdf)

[content/uploads/2023/06/Safe\\_4\\_ToshimakuKeyuencenterKaisetuKit.pdf](https://fumiyochi.net/wp-content/uploads/2023/06/Safe_4_ToshimakuKeyuencenterKaisetuKit.pdf)

- ② 当日配布：「前提とする震災のシナリオ(豊島区地域防災計画総則 p.7)」(東目白本町会会長)

### 【内容】

#### ○トランシーバーについて情報交換

・雑司が谷三丁目町会で所有しているのは、IP 無線でなくトランシーバー5台(20万円)。町会内の連絡用に購入。電波使用料月額を支払い中。混線したら、その都度、チャンネル変更して使用する。機械の届け出はしたが、資格は不要。

・消防展では、前回(五年前)はトランシーバーが多数あったが、今回は見当たらなかった。  
・IP 無線の月額使用料は 900 円程度。

・救援センター、補助救援センター、福祉救援センターには IP 無線はあるが、横の連絡は想定されていない。

・斎場も夜勤者は 15:00-22:00 が勤務時間なので、災害時の連絡方法は欲しい。

・震災100年記念助成金を有効に活用したい。

## ○ 資料の読み上げ

・受付カード、避難者カードの記入の余裕は避難者にはないのではないかと。便宜的に、まず、体育館を12区画に区切って、11町会地域居住者と要配慮者に分かれて座ってもらったかどうか。詳しい配置は、その後、決める。先着順で場所を取れるわけではないことは事前に周知して不満を抑える必要がある。

→ ブルーシートを用意しておくのと座りやすいが、間仕切りで区分することにするのか？

・ペットは、ケージに入れて連れてくるのが基本。家が倒壊したら、ケージを取り出せないことも想定される。

・屋外で屋根がある場所にペットの飼育場所が決められるとよい。学校と要相談。

・3日間くらいは、家に置いておいたらいいのではないかと。

・配置図は大判印刷してあったほうがよい

・まずは、校庭に入ってもらって、体育館の準備ができれば、町会ごとに集まって座ってもらえるように分けしただけでもいいのではないかと。

★校庭にブルーシートを用意し、座って待てるとうい。各自、自分のシートを持参してもよい。

・避難者カードは複雑で、現実的ではないように思う。

・在宅避難者が給食提供を受ける手順を、平時に伝えておいた方がいい。

・現在の開設キットでは円滑に開設できると思えないが、円滑に開設できるように町会などがするのは大変。→編者が基本的な提案をして、スクラムで精査するのはどうか？

・プールの水をトイレ排水に使うとしたら、具体的にどうするのか？

### 1. 建物の安全確認

・安全確認は、専門的に厳密にできるものではないので、「危険を感じなければ安全とする」のでよいのではないかと。

・学校施設の安全チェックは区役所から来るべきである。夜間に、災害が発生した場合は、救援センター長が来るまで、開設はできない。避難者は校庭に居ればよい。

・施設の安全確認は、都に専門家派遣を依頼すると2-3日かかる。それまで避難所開設ができないのは困るため、様式の評価方法で開設するというのが区の説明。

・安全確認は、区職員または学校教職員の立ち合いを求めるとしたい。町会は近隣の安否確認などをしていて、救援センターに災害発生後3時間を目指して集合するのが妥当。

それまでに、2Km,5Km 以内に居住する区配備職員が安全確認は十分できると推測される。

・地域防災計画には、(区役所の)学校担当者が行う事項が多く書いてある。

→ 伊藤係長に、地域防災計画の記載における「学校教職員の中の担当者」の意味を確認したところ、「地域防災計画の当該部分は全面改定の予定」、「日中の大規模地震発生では、学校教職員が施設安全確認をする。夜間は、誰でもできるように地域防災計画を修正中。地域防災計画と、新しく作成した開設キットの内容に食い違いがある点は、開設キットに沿って地域防災計画を修正する場合も出てくる。」との回答。

「町会以外を対象とした開設キットの訓練も検討しており、今年始められるわけではないが、「町会(だけ)が開設を行うのではなく、避難者が開設を行う」と考えている。」  
(電話での会話なので、間違いがあるかもしれません)

- ・開設前(施設の安全確認の前)でも、避難者を校庭に入れてもいいのではないかな？
- ・避難者を校庭に入れるのであれば、開設前でも、雨天の対応とトイレ対応は、早い段階で必要。
- ・延焼の危険、余震による建物被害の予測は困難:「屋上から一人は周囲の火災状況などを監視する」というのは、古くからの鉄則。

## 2. 居住者の安否確認

- ・安否確認の様式は救援センターに来た人を書くのではなく、一時避難所で「安全、要救出、不明、ケガなど」を書く方がよいのではないかな？
- ・雑司が谷一丁目町会では、安否確認の黄色いハンカチ(白いタオル)を提案したが、「不用心」と否決された。

## 3. ドローンの活用可能性

- ・講習資料は pdf で共有予定。
  - ・災害時には許可を取っている暇はないだろう。
  - ・防災訓練としてドローンを使用するのは、関心も高まるのではないかな。
- ★消防署、消防団にデモンストレーションを依頼する方法もあるかな？

#### 4. 開設キットを具体的に使う訓練

- ・資料に記載した 10 案の確認
- ・防災備品は新品のまま置いておきたいので、段ボールベッド、トイレなどを開けて組み立ててみたい場合は、デモンストレーション用を区役所から提供する(伊藤係長より)。

#### 5. 入口と開錠

- ・2か所の入り口を両方開けるか？ → 近い入口から入ろうとするのが普通。
- ・開錠の段取りは、誰が来られるかわからないから、みんなが知っておかないといけない
- ・開錠の段取りを、どう地域居住者に知らせるかが課題。町会からは役員会・回覧版で知らせるくらい。

#### 6. 冊子の記入について

- ・編者によるコメントを追加している
- ・事前に、施設安全管理については、区(救援センター長)・学校・町会で一緒に場所を確認したほうがいいのではないかな？

#### 7. 町会・避難者の役割範囲

- ・何もかも、避難者がすることになってしまわないか危惧する
- ・避難者・居住者ができることはすればよい。できないことを行政に依頼すればよい。

#### 8. 資料「前提とする震災のシナリオ」の図について

- ・3時間後に、「救援センターの開設が混乱する」とある。避難所開設に町会が参加できるのは3時間後と見込んでいいのではないかな？
- ・開設は「自動参集開始時:区長の指示」、「鍵を開けたとき」、「建物の安全確認が終わったとき」、「受付開始」のどの時期かな？

#### 9. 311での共助と被害

- ・311の時には、京橋から池袋まで徒歩帰宅した。途中の喫茶店などが、「トイレ、水、休憩」を提供する貼り紙をしていた。自発的な共助が発生することが期待される。
- ・ヘルメットをかぶっている帰宅者が、結構、いた。自転車用のヘルメットが使える。
- ・池袋まで同僚・部下と歩き、埼玉県内への帰宅には、自家用車を貸した。

#### 10. 練習用貸し出しキットがほしい&学校との関係

- ・自由に触れる貸し出し用キットがほしい。→ 今回作成した冊子が代替えになる。

- ・キットの所有者は区か？ → 区所有でした
- ・学校長などと、学校側の避難所開設準備について意見交換をしたらどうか？ → 各町会で、それぞれに学校とのかかわりは(お祭り、纏作成など)あるので、その中で非公式な意見交換をする機会はある。

## 11. 昼間の大規模地震発生の場合

- ・学校の準備状況
- ・引き渡しと、町会からの避難の交錯:学校の引き渡し訓練では、帰宅は音大側の門からとなっている
- ・独居高齢者の避難、独居男性は把握しにくい
- ・マンションの課題:マンションは強固で倒壊しないと思われているが、ライフラインが停止した時に、在宅避難できるかは確実ではない。

## 12. 要配慮者支援

- ・個別避難計画は、浸水地域の優先度が高いと判断され、雑司が谷・南池袋地域は優先順位が全体として低いと推測される。
- ・要配慮者に関する研修講師の紹介を福祉総務課に依頼したら、佐藤さん(大正大学)を紹介された。地元なので、直接に依頼できる。

## 13. ハザードマップの裏面は読みにくい

以上